

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 2 0 0 8 年 1 0 月 調査結果 —

2 0 0 8 年 1 0 月 3 1 日
日 本 商 工 会 議 所

< 結果のポイント >

- 10月の全産業合計の業況DIは▲64.6と、98年10月以来、10年ぶりの低水準となる厳しい結果となった。また、全産業合計の採算DIも▲59.1と、同じく98年10月以来の水準。
- 仕入価格の高止まりに加え、受注や売上の減少に伴う採算・収益の悪化が加速している。米国経済の減速に伴い、10月に入り受注が減少したという声が出ている。
- 中小・小規模企業の倒産・廃業の増加により、従業員DIは▲11.1と、03年8月以来の水準となった。全ての業種で過剰感が強まっている。
- さらに、米国金融危機の影響に伴い、先行きに対する不安感や、消費マインドの冷え込み懸念、金融機関の貸出姿勢の一層の厳格化などを訴える声がかかなり多い。なお、原油や一部原材料価格の下落が、経営面に好影響を与えたという声は、ほとんどない。

☆ L O B O 調査は、地域における毎月の景気動向を調査するものであり、当該月の景況に係る調査結果を最も早く集計・公表しております（1989年4月調査開始）。

◇ 調査期間：2008年10月20日～24日

◇ 調査対象：全国の404商工会議所が2579業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 381 製造業 616 卸売業 235
小売業 737 サービス業 610

◇ 調査項目：今月の業況・売上・採算などについての状況（DI値を集計）および業界として当面する問題など

※ DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

【本件担当】 産業政策部 TEL: 03-3283-7836
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

本調査結果は日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>) でもご覧になれます。

【2008年10月調査結果の概要】

業況DI、採算DIは10年ぶりの低水準

- 10月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲61.2）よりマイナス幅が3.4ポイント拡大して▲64.6となり、98年10月以来の低水準となった。

産業別の業況DIは、製造で横ばいだったものの、他の4業種はマイナス幅が拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、原油価格の下落により、今後に期待といった声があるものの、各種原材料価格の高止まりや消費マインドの冷え込みにより、採算面では厳しい状況。また、米国金融危機の影響による先行きへの不安や、金融機関の貸出姿勢の厳格化などを訴える声が多くなっている。

各業界から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業 ～売上DIは98年7月以来の低水準～】

- ・「米国金融危機の影響により、先行きへの不安感から工事発注が控えられるなど、建設業界は厳しい状況」（建築工事業）
- ・「公共工事の大幅な減少に伴い低価格での受注競争が激化し、収益は悪化」（一般工事業）
- ・「受注の減少が続き、建設・不動産関連業者の倒産が増加」（電気工事業）

【製造業 ～売上DIは02年5月以来の低水準～】

- ・「比較的好調であった自動車部品関連も陰りが見え始め、前年比の売上も悪化」（工業用プラスチック製造業）
- ・「10月になり受注が極端に減少。年末年始にかけて資金繰りなどへの悪影響を懸念」（金属加工機械製造業）
- ・「受注の減少に加え、発注先からはコストダウン要請が続き、採算は悪化」（金属加工機械製造業）

【卸売業 ～業況DIは引き続き低水準で推移～】

- ・「米国金融危機の影響により、業況の悪化が加速、事業者向け、一般消費者向けともに売上が減少」（各種商品卸売業）
- ・「原油価格は下落したものの、梱包材の値上げが始まり、採算は一段と厳しくなる見通し」（繊維品卸売業）
- ・「消費者の食品に対する不安感から、中国産農産物などの販売が苦戦」（農畜産水産物卸売業）

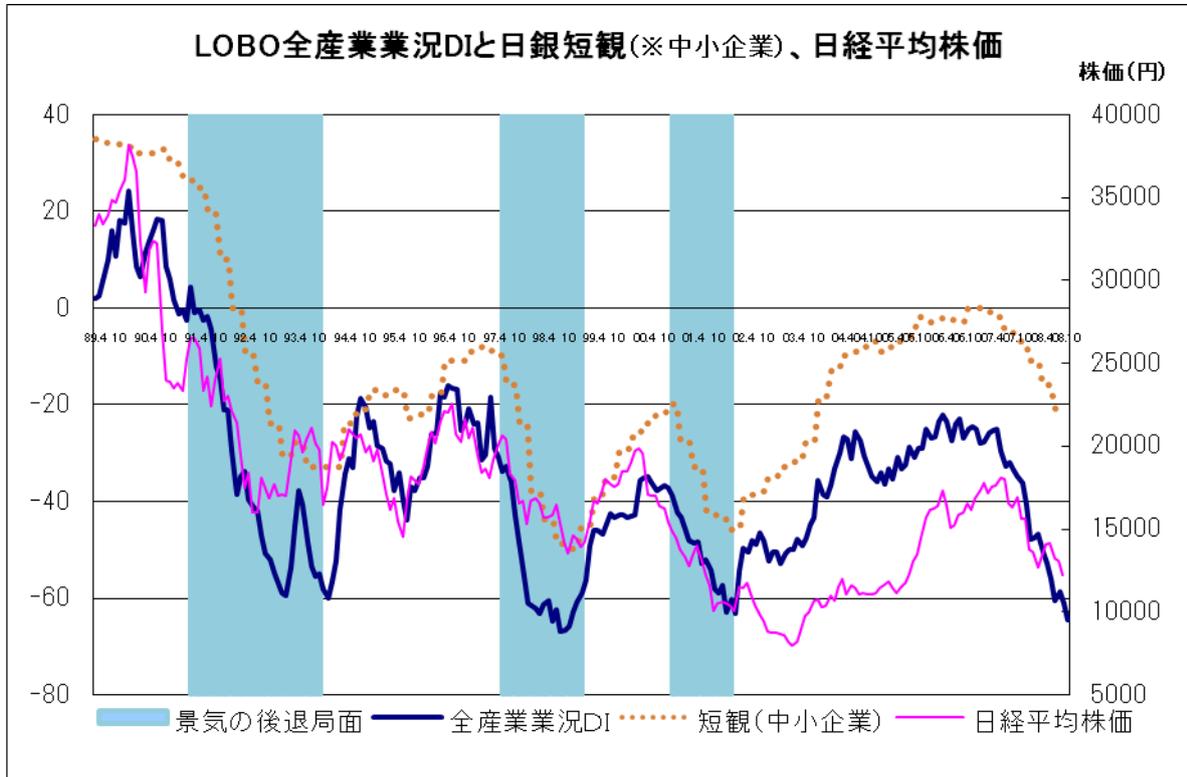
【小売業 ～業況DI、売上DIは98年10月以来の低水準～】

- ・「高額品の販売不振に加え、汚染米報道などの影響による食料品の売上悪化を懸念」（百貨店）
- ・「米国金融危機に伴う先行きに対する不安感からか、来客数が大幅に減少」（その他の小売業）
- ・「先行きへの不安感や、金融機関の貸出姿勢の厳格化などの悪影響を訴える声が増加」（商店街）

【サービス業 ～業況DI、採算DIは調査開始以来最悪の水準～】

- ・「売上の減少が続く一方、仕入価格の高騰により採算が悪化し、人件費を削減しな

- ければならない状況」(食堂・レストラン)
- ・「円高の影響で外国人宿泊客が減少傾向」(旅館)
 - ・「原油高や米国金融危機の影響で顧客からサービス価格の値下げや取引中止要請が数件あり、厳しい状況」(建物サービス)



※短観(中小企業)：資本金2千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

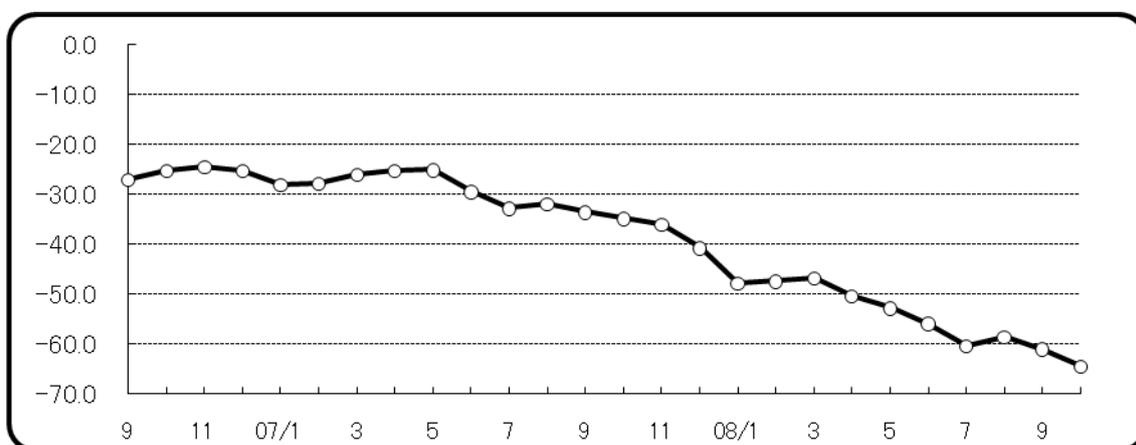
- 10月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲61.2）よりマイナス幅が3.4ポイント拡大して▲64.6となり、98年10月以来の低水準となった。
- 産業別にみると、DI値のマイナス幅は製造で横ばいだったものの、他の4業種は拡大した。中でも、小売は98年10月以来の低水準、サービスは調査開始以来最悪の水準。
- 向こう3カ月（11月～09年1月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲60.5と、昨年同時期の先行き見通し（▲29.8）に比べて30ポイント以上悪化している。
- 産業別にみても、すべての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、19ポイント以上マイナス幅が拡大している。

業況DI（前年同月比）の推移

	08年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	▲52.9	▲56.0	▲60.5	▲58.8	▲61.2	▲64.6	▲60.5 (▲29.8)
建設	▲65.0	▲67.7	▲73.2	▲71.4	▲70.8	▲71.1	▲66.4 (▲46.5)
製造	▲49.0	▲52.4	▲61.3	▲55.4	▲59.8	▲59.8	▲59.3 (▲23.9)
卸売	▲49.1	▲52.6	▲64.5	▲64.7	▲59.7	▲63.8	▲57.4 (▲32.5)
小売	▲52.6	▲57.7	▲54.4	▲58.9	▲59.2	▲64.4	▲60.9 (▲29.3)
サービス	▲50.6	▲51.2	▲56.8	▲51.4	▲59.7	▲65.9	▲58.4 (▲24.9)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年10月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



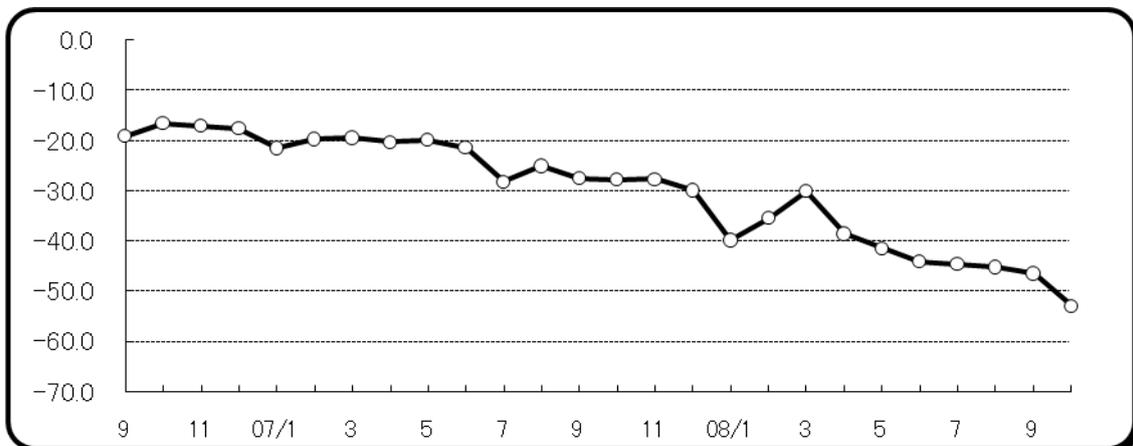
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が6.4ポイント拡大して▲52.9となり、7カ月連続で悪化した（02年2月以来の低水準）。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売で縮小したものの、他の4業種では拡大した。中でも、建設は98年7月、小売は98年10月、サービスは98年12月以来の低水準。
- 向こう3カ月（11月～09年1月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が▲48.3と、昨年同時期の先行き見通し（▲20.2）に比べ28ポイント以上悪化している。
- 産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で15ポイント以上マイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	08年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	▲41.5	▲44.1	▲44.6	▲45.2	▲46.5	▲52.9	▲48.3 (▲20.2)
建設	▲58.6	▲62.2	▲62.6	▲58.9	▲63.1	▲65.3	▲60.6 (▲41.6)
製造	▲29.9	▲33.0	▲39.7	▲41.0	▲41.6	▲47.7	▲46.2 (▲13.9)
卸売	▲33.1	▲39.2	▲42.6	▲46.0	▲43.6	▲42.3	▲32.9 (▲17.2)
小売	▲46.5	▲48.7	▲39.9	▲47.3	▲44.0	▲55.0	▲49.3 (▲20.1)
サービス	▲39.9	▲40.2	▲44.5	▲37.6	▲45.4	▲52.0	▲47.6 (▲14.4)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



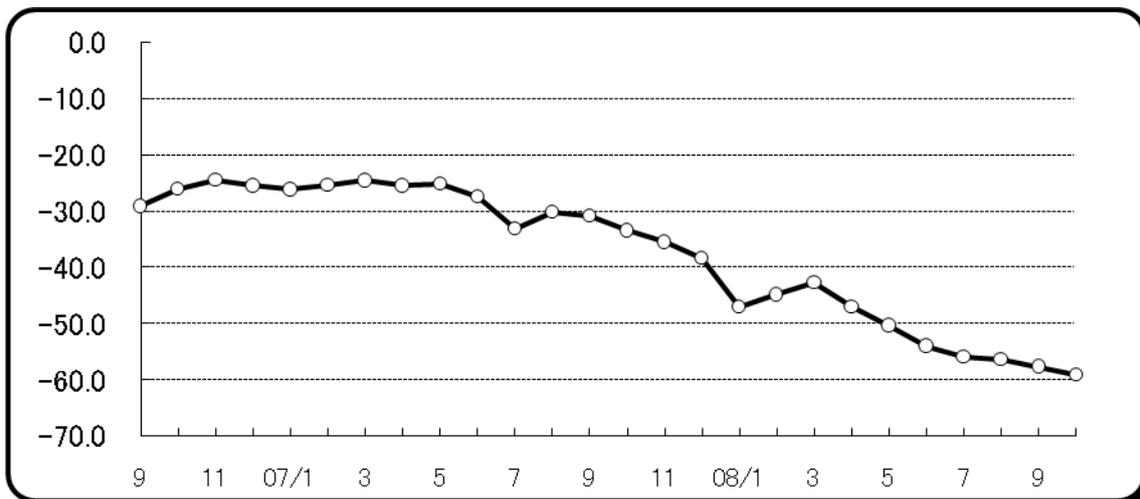
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が1.4ポイント拡大して▲59.1となり、7カ月連続で悪化した（98年10月以来の低水準）。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売で縮小し、建設、製造でほぼ横ばいだったものの、他の2業種では拡大した。中でも、サービスは調査開始以来、最悪の水準を記録した。
- 向こう3カ月（11月～09年1月）の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I（今月比ベース）が▲53.6と、昨年同時期の先行き見通し（▲25.8）に比べて27ポイント以上悪化している。
- 産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で19ポイント以上マイナス幅が拡大している。

採算D I（前年同月比）の推移

	08年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	▲50.4	▲54.0	▲55.9	▲56.4	▲57.7	▲59.1	▲53.6 (▲25.8)
建設	▲63.5	▲70.9	▲70.1	▲70.4	▲70.8	▲70.1	▲63.2 (▲43.7)
製造	▲50.6	▲54.4	▲58.1	▲59.0	▲60.9	▲60.3	▲55.4 (▲24.1)
卸売	▲39.9	▲44.2	▲49.0	▲55.3	▲51.7	▲50.3	▲41.9 (▲22.9)
小売	▲46.9	▲48.2	▲46.8	▲49.2	▲51.5	▲53.9	▲50.7 (▲23.8)
サービス	▲50.0	▲53.0	▲57.9	▲53.0	▲55.7	▲60.4	▲53.8 (▲19.8)

《採算D I（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

資金繰りD I（前年同月比）の推移

	08年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	▲ 31.0	▲ 31.9	▲ 37.8	▲ 37.2	▲ 37.9	▲ 41.3	▲ 40.4 (▲ 21.4)
建設	▲ 47.6	▲ 46.6	▲ 52.3	▲ 56.3	▲ 52.0	▲ 55.0	▲ 51.1 (▲ 39.0)
製造	▲ 31.3	▲ 34.2	▲ 36.0	▲ 37.7	▲ 38.2	▲ 43.8	▲ 44.7 (▲ 18.5)
卸売	▲ 24.3	▲ 27.5	▲ 32.2	▲ 32.2	▲ 30.5	▲ 32.1	▲ 32.9 (▲ 15.8)
小売	▲ 24.9	▲ 26.2	▲ 31.2	▲ 32.7	▲ 30.8	▲ 35.1	▲ 33.3 (▲ 17.9)
サービス	▲ 29.4	▲ 27.5	▲ 39.9	▲ 30.5	▲ 39.6	▲ 40.2	▲ 39.7 (▲ 19.4)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは2カ月連続で悪化した（02年2月以来の低水準）。産業別にみても、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化が強まる見通し。

仕入単価D I（前年同月比）の推移

	08年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	▲ 55.7	▲ 59.8	▲ 59.4	▲ 60.9	▲ 58.0	▲ 55.1	▲ 41.6 (▲ 33.2)
建設	▲ 70.1	▲ 71.5	▲ 70.4	▲ 71.3	▲ 62.5	▲ 61.4	▲ 41.0 (▲ 38.5)
製造	▲ 63.2	▲ 68.1	▲ 65.4	▲ 70.4	▲ 64.2	▲ 62.5	▲ 42.6 (▲ 38.1)
卸売	▲ 45.7	▲ 48.7	▲ 51.0	▲ 46.7	▲ 45.6	▲ 45.0	▲ 38.3 (▲ 32.3)
小売	▲ 48.2	▲ 52.6	▲ 52.8	▲ 53.7	▲ 54.6	▲ 50.0	▲ 42.1 (▲ 28.5)
サービス	▲ 51.2	▲ 56.1	▲ 57.0	▲ 58.4	▲ 57.7	▲ 53.4	▲ 41.8 (▲ 30.8)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲ 55.1となり、前月から縮小。産業別にみても、仕入単価の上昇感はすべての業種でマイナス幅が縮小している。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	08年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	▲ 6.5	▲ 7.9	▲ 9.0	▲ 8.1	▲ 7.6	▲ 11.1	▲ 11.7 (▲ 3.6)
建設	▲ 21.3	▲ 25.6	▲ 28.0	▲ 28.6	▲ 25.8	▲ 28.6	▲ 25.8 (▲ 17.3)
製造	▲ 6.2	▲ 9.1	▲ 9.8	▲ 7.7	▲ 8.0	▲ 13.4	▲ 15.3 (▲ 5.8)
卸売	▲ 6.7	▲ 10.4	▲ 13.5	▲ 14.0	▲ 14.3	▲ 13.4	▲ 14.2 (▲ 9.6)
小売	0.6	0.2	▲ 2.6	▲ 1.4	0.5	▲ 3.3	▲ 4.0 (2.6)
サービス	▲ 5.4	▲ 3.1	▲ 1.3	0.0	▲ 2.3	▲ 5.2	▲ 6.6 (2.9)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の過剰感は3.5ポイント強まり、03年8月以来の水準となった。産業別にみると、D I値は卸売でほぼ横ばいだったものの、小売で過剰に転じ、他の3業種で過剰感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみても、小売、サービスで過剰に転じ、他の3業種は過剰感が強まる見通し。

【2008年10月の景気キーワード】

○ 先行き不安感の拡大

各業種から、業況の悪化や、米国金融危機の影響に伴う、先行きへの不安を訴える声が寄せられている。建設業からは、「金融不安の影響による、金融機関の貸し渋りを懸念」（酒田・一般工事業）、「業況、資金繰りが悪化し、同業者の倒産が増加する見込み」（一宮・建築工事業）、製造業からは、「10月より仕入価格が値上げされたが、現時点での販売価格への転換は困難なため、収益は悪化する見込み」（岩見沢・印刷業）との声が寄せられている。また、小売業からは、「今回の金融不安は予想以上に厳しい状況。お客様は必要な物だけしか購入せず、年末商戦に向けて大きな不安」（函館・百貨店）、サービス業からは、「消費の縮小や金融機関からの貸し渋りなど先行きは厳しく、年末年始特需も全く期待できない」（銚子・他の一般飲食店）との声が寄せられている。

○ 仕入コストの高止まり

原油価格は下落しているものの、仕入コストは依然として高止まりで推移しており、各業種から採算への悪影響などを訴える声が寄せられている。建設業からは、「油脂類が下落傾向にあるが、依然、鋼材等の調達資材は高く、採算は厳しい状況」（根室・一般工事業）、「低価格での受注競争が激しい中、コンクリート製品等の値上げが続いており、採算の悪化が著しい」（倉吉・一般工事業）、製造業からは、「原材料価格の高騰により厳しい経営状況が続いており、廃業を考えているという声もある」（八幡浜・水産食料品製造業）との声が寄せられている。また、小売業からも、「ガソリン価格は落ち着きを見せてきたが、商品の仕入価格は依然高止まりしており、年末まで売上は低迷する見込み」（立山・百貨店）といった声が寄せられている。

○ 消費マインドの冷え込み

食料品をはじめとする諸物価の高騰や、米国金融危機の影響に伴う今後への不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上悪化などの影響を挙げる声も寄せられている。製造業からは、「原材料価格の高騰で厳しい状況だが、消費の低迷により値上げは困難」（水戸・他の食料品製造業）、小売業からは、「金融不安は消費意欲に水を差し、高額商品の動きが停滞」（金沢・百貨店）、「食料品価格の上昇や先行きに対する不安感などから、消費者は必要な物しか買わない状況」（銚子・商店街）、サービス業からは、「平日夜の来客が特に落ち込んでおり、消費意欲の低下が感じられる」（館山・食堂・レストラン）、「好天が続き、本来なら来店者が増えるはずだが、客数も伸び悩んでいる」（赤穂・喫茶店）といった声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
08年 8月	更なる悪化への懸念	仕入コストの更なる上昇	消費意欲の低下
9月	更なる悪化への懸念	仕入コストの更なる上昇	消費意欲の低下
10月	先行き不安感の拡大	仕入コストの高止まり	消費マインドの冷え込み

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

※本文中の（ ）内は、（地名・業種）を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況DIは3カ月ぶり、売上DIは2カ月連続でマイナス幅が拡大、採算DIはほぼ横ばいとなった。「米国金融危機の影響による発注の停止に加え、設備投資も控えられている」、「受注の減少が続き、事業の廃止や解散の動きが見られる」（ともに土木工事業）、「資材価格が高水準で推移する一方、価格転嫁は難しく、採算は悪化」（一般工事業）、「相変わらず新設住宅の受注は低調で、売上が減少」（建築工事業）、「金融不安に伴う貸し渋りにより、資金繰りが悪化」（電気工事業）といった声が寄せられている。
製 造	業況DI、採算DIはほぼ横ばい、売上DIはマイナス幅が7カ月連続で拡大した。「消費者の生活不安の増加から、嗜好品や食料品の購入数量が減少」（水産食料品製造業）、「金融危機や株安の影響に加え、食の安全問題による消費の冷え込みを懸念」（パン・菓子製造業）、「受注期の10月になっても受注量の大幅改善は見込まれず、依然として厳しい状況」（織物製造業）、「自動車生産台数の減少、情報通信業界の伸び悩みが業績に悪影響」（金属製品製造業）、「住宅着工数の減少により売上が悪化」（畳製造業）といったコメントが寄せられている。
卸 売	業況DIは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大、売上DI、採算DIは2カ月連続で縮小した。「事故米報道の影響による売上の減少に加え、金融機関の貸し渋りによる資金調達の悪化を懸念」（各種商品卸売業）、「世界的な金融不安により消費マインドが冷え込み、売上は前年割れ」（衣服・日用品卸売業）、「仕入れ価格の上昇に対し、販売価格の値上げは難航、むしろ値下げ圧力が強い」（農畜産水産物卸売業）、「景気悪化により、行楽地への来客数の減少を懸念」（食料・飲料卸売業）といった声が寄せられている。
小 売	業況DI、採算DIは3カ月連続、売上DIは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「来客数・売上ともに減少するなど、厳しい状況」（百貨店）、「金融不安により消費はさらに落ち込み、飲食店の閉店も発生」、「例年以上の気温上昇のため、秋・冬物衣類の販売が不調」（ともに商店街）といった声が寄せられている一方、「値上げが続く中、食料品・日用品を中心にプライベートブランド商品の売れ行きが好調」（百貨店）、「ガソリンの値下がりが続けば車での来街者の増加が期待でき、売上も多少好転する見込み」（商店街）との声も寄せられている。
サービス	業況DI、売上DI、採算DIともに2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「先行き不安による消費者の生活防衛意識により、外食産業は特に厳しい状況、宴会などの催しも昨年より減少」（食堂・レストラン）、「金融機関から今まで要求されたことのない資料の提出を求められるなど、借入時の審査が厳しくなった」（ソフトウェア）、「物価上昇により理容に対する優先順位が下がり、来店回数の減少などの悪影響が発生」（理容）、「個人タクシーは最悪の状況で、廃業者数が増加」（他事業サービス）といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

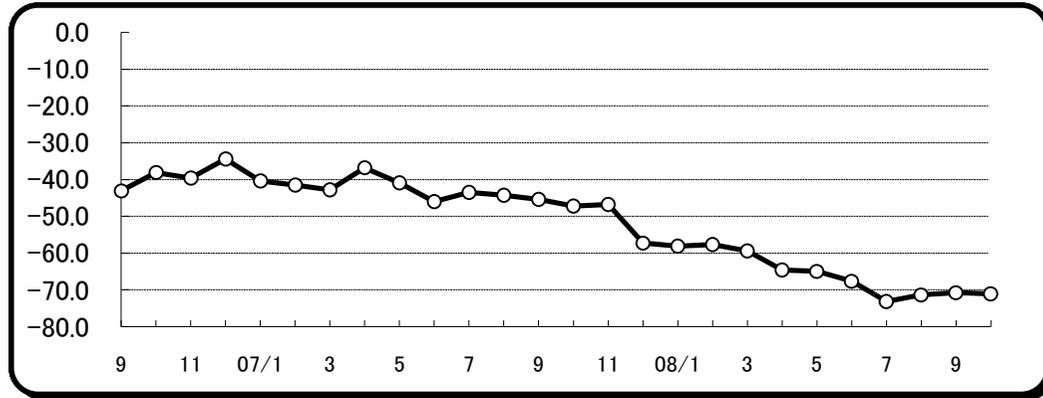
- ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、東北、近畿では低水準で推移する一方、他の7ブロックは拡大した。また、全ブロック合計は2カ月連続でマイナス幅が拡大した。
- なお、業況D Iが大幅に悪化した北陸信越は、国内外問わず製造業を中心とした受注の減少、関東は小売・サービス業を中心に、消費マインドの冷え込みによる売上の減少が、特に影響したものと見られる。
- ブロック別の向こう3カ月（11月～09年1月）の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

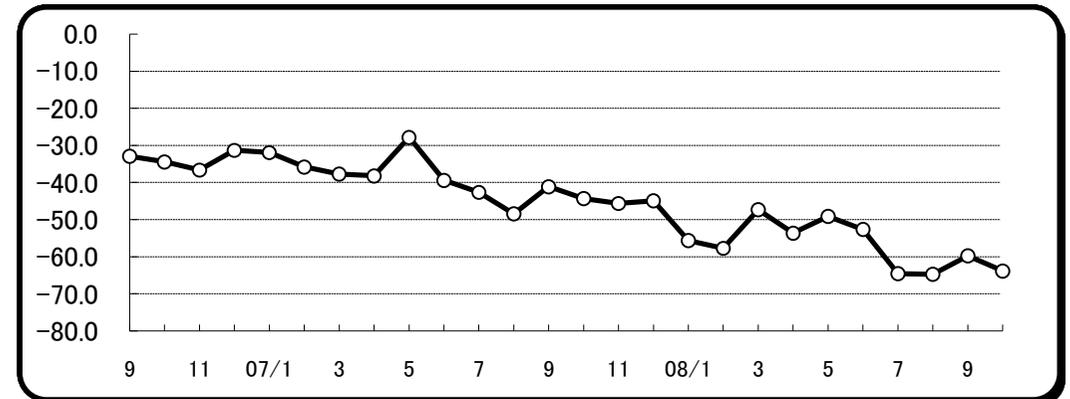
	08年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全 国	▲ 52.9	▲ 56.0	▲ 60.5	▲ 58.8	▲ 61.2	▲ 64.6	▲ 60.5 (▲ 29.8)
北 海 道	▲ 56.7	▲ 56.2	▲ 64.1	▲ 55.2	▲ 56.1	▲ 57.6	▲ 53.4 (▲ 32.0)
東 北	▲ 51.3	▲ 59.7	▲ 65.7	▲ 66.7	▲ 68.7	▲ 63.0	▲ 65.2 (▲ 38.5)
北陸信越	▲ 52.4	▲ 55.4	▲ 54.1	▲ 54.7	▲ 52.7	▲ 64.9	▲ 62.9 (▲ 31.1)
関 東	▲ 51.2	▲ 56.0	▲ 61.9	▲ 59.2	▲ 60.7	▲ 66.4	▲ 58.9 (▲ 27.8)
東 海	▲ 47.8	▲ 56.7	▲ 56.0	▲ 54.4	▲ 58.9	▲ 63.6	▲ 59.4 (▲ 26.5)
近 畿	▲ 55.2	▲ 57.9	▲ 64.3	▲ 64.5	▲ 69.4	▲ 67.5	▲ 61.3 (▲ 30.9)
中 国	▲ 57.1	▲ 56.2	▲ 59.2	▲ 55.1	▲ 60.0	▲ 64.9	▲ 63.6 (▲ 31.6)
四 国	▲ 54.2	▲ 50.4	▲ 62.4	▲ 56.9	▲ 60.6	▲ 64.3	▲ 62.6 (▲ 32.3)
九 州	▲ 53.5	▲ 55.2	▲ 55.0	▲ 58.6	▲ 60.3	▲ 63.4	▲ 58.6 (▲ 23.4)

業況DI（前年同月比）の推移（全国）

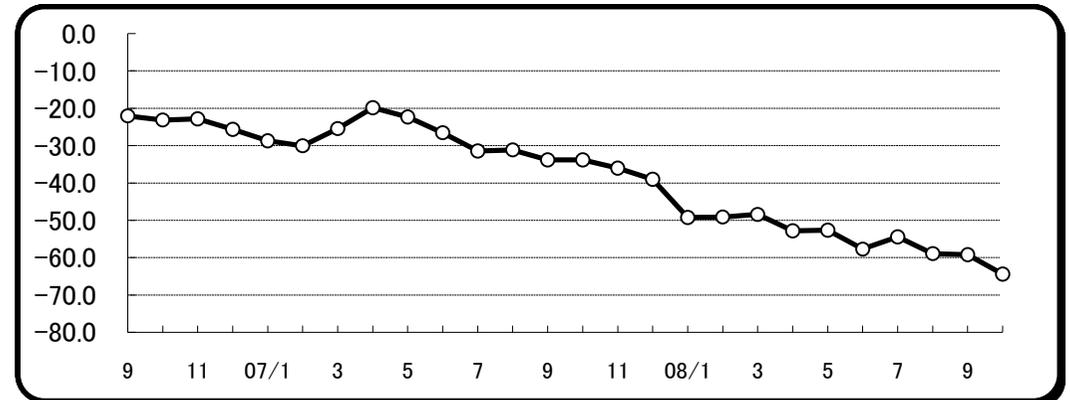
建設業



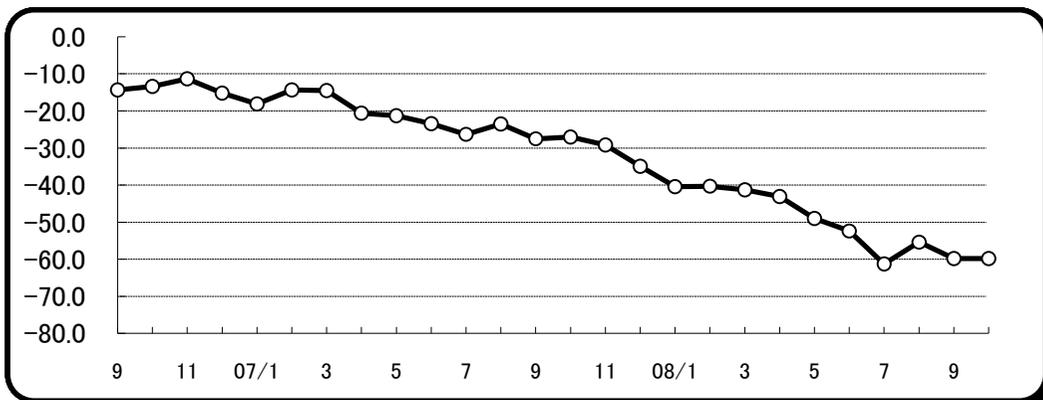
卸売業



小売業



製造業



サービス業

